

皆のより良い暮らしのために

所沢市立東中学校

三年 小林 真菜

私は先日、修学旅行で京都と奈良を訪れた。お小遣いは拝観料と駐車場代を抜いた八千円。もちろん消費税込だ。私は足りるかどうか不安で、お土産を買っている時も消費税を気にしていた。そして、お寺で御朱印を買った際に税がかかっていないことに気が付いた。消費税がかからないものがあることは知っていたが、御朱印に課税がないことは初めて知った。また、お守りとおみくじも非課税である。私はこれを機に税について興味を持ち、調べてみることにした。

調べてみると、社会保障や住民の安全を守るためなど様々な方向で税金が使われていた。その中で、私は今の自分に一番関係がある教育に焦点を当ててみた。私たち中学生、もしくは小学生が使用している教科書は、私たちに無料で配られている。高校生からは教科書を自分で買わなければいけなくなる。では、小学生や中学生に無料で配布されている教科書のお金はなにかまかなわれているのだろうか。答えは税金である。実際、教科書の無料配布にかかる費用は七百四十三億円にも上っている。しかし、その教科書に落書きをしたり、乱暴に扱う人も多くいる。その費用の中には、私たちが払う税金も含まれているかもしれない。それでも、大人が払う税金の方が多いのは確かである。私も落書きしてしまうことがあるが、もうしないと心に決めた。

また、それと同時に納税をしている人たちに、「大切なお金を私たちのためにありがとうございます。」と伝えたい。

当たり前と皆が思っていること。学費を払わずに学校で楽しく授業を受けられる。休み時間には整備されたグラウンドで遊べる。放課後にはきれいな体育館で夢中になって部活ができる。帰りは友達と話しながら安全な道を通って帰れる。いつもと変わらない日々。今まで続いてきた、そして後少して終わるあつという間の日々。振り返ってみると税金に支えられていることを改めて実感する。移り変わっていく季節。これは税の仕組みに似ている。季節によって気温が変わるように、納税額も変わる。人々が季節による暑さや寒さを防ぐために助け合うように、余裕のある人が苦しい人を助ける。そして、季節が変わると生活が変わるように、新たに納税者になる人がいる。私たちはもうすぐ納める側。今までは大人が納める税金により、守られていた当たり前を次の子供たちが当たり前と感ずるようになり、それまで納税してくれた人が安心して暮らせるようにしよう。

税金はとても繊細だ。少しでも変動があると全てを変えなければならぬ。まるで紙飛行機のように。だからこそ、いつになっても一定の高さを安定して飛び続ける紙飛行機を支えよう。